



工学系研究科循環物質化学専攻大学院生が
インドネシア・ムハマディア大学主催の国際会議で
優秀論文賞を受賞

【概要】

循環物質化学専攻 博士前期課程 2 年 Shaimah Rinda Sari さんが、2020 年 9 月 25 日（金）～26 日（土）に開催されたインドネシアのムハマディア大学パレンバン校 (Universitas Muhammadiyah Palembang) 主催の国際会議 The 10th International Conference of Muhammadiyah and Aisiyyah Higher Education Association で優秀論文賞を受賞しました。

【本文】

2020 年 9 月 25 日（金）～26 日（土）に、インドネシアのムハマディア大学パレンバン校 (Universitas Muhammadiyah Palembang) 主催の国際会議 The 10th International Conference of Muhammadiyah and Aisiyyah Higher Education Association が Zoom Webinar によりオンラインで開催されました。主催のムハマディア大学パレンバン校からはもとより、同大学のメトロ校やジャカルタ校、マカッサル校、ジャンビ校、タンゲラン校、クパン校、ジョグジャカルタ校から、さらにインドネシア大学やスラバヤ工科大学、スリビジャヤ大学などのインドネシアの有力大学からも多くの学生や教員の参加があり、参加登録者が約 300 名の盛大な国際会議になりました。

本国際会議は、工学・社会学・教育・ビジネスの幅広い分野をカバーしており、基調講演を除いてそれぞれの分野に別れて会議が行われました。Shaimah Rinda Sari さんは工学分野で口頭発表しました。発表内容は、結晶状態とそのサイズが整ったコバルトナノ粒子が固定化された多層カーボンナノチューブの新規合成法ならびにこれを修飾したグラッシーカーボン電極を用いると、極めて濃度が薄い 10^{-10} mol/～レベルのリン酸イオンを検出できることを報告しました。リン酸イオンは環境保全と関わっており、濃度が高いと川や湖が藻類で覆われて緑色になります。その濃度を測ることは水環境のモニタリングに重要です。従来は高額な装置を用いて複雑な処理を経てから測定がなされていましたが、本研究成果は、この測定を簡易かつ低コストのリン酸イオンセンサの開発に繋がると考えられます。以上のようにインパクトのある優れた研究成果と理路整然とした英語での論文と発表が高く評価されて、優秀論文賞に選ばれました。おめでとうございます。工学分野では 32 名の発表があり、そのうちの 2 名が優秀論文賞に選ばれています。

なお、本研究成果は熊本大学工学部との共同研究成果です。

○優秀論文賞

工学系研究科 循環物質化学専攻 博士前期課程 2 年生 Shaimah Rinda Sari

(指導教員：富永 昌人 教授)

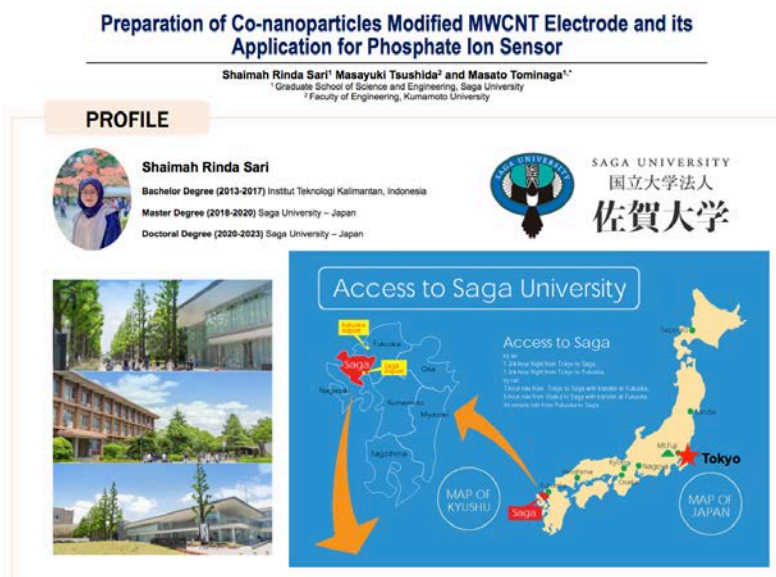
題 目： Preparation of Co-nanoparticles Modified MWCNT Electrode and its Application for Phosphate Ion Sensor

(リン酸イオンセンサのためのコバルトナノ粒子修飾カーボンナノチューブ電極の開発)

発表者： Shaimah Rinda Sari, Masayuki Tsushida, Masato Tominaga



授与された賞状



口頭発表のスライドの一部